

1. はじめに
2. 酵素と EC 番号
3. 機械学習による EC 番号予測
4. 提案手法
5. 実験結果並びに考察
6. その後の流れ
6. おわりに

有機合成に最適な酵素候補提示のための特徴量エンジニアリングによる EC 番号予測

EC Number Prediction Using Feature Engineering
to Present Optimal Enzyme Candidates
in Organic Synthesis

武藤 克弥 (Katsuya Muto)
u255018@st.pu-toyama.ac.jp

富山県立大学大学院 電子・情報工学専攻 情報基盤工学部門

January 23, 2024

1. はじめに

2/21

1.1 研究背景

有機合成化学において、生体触媒の効率性や環境面から化学反応の設計に酵素を生体触媒として利用される機会が増加している。酵素は EC 番号によって分類されており、代謝経路の解析や新たな酵素反応設計のため、機械学習で EC 番号を予測し、酵素の性質を特定する研究が行われている。

1. はじめに
2. 酵素と EC 番号
3. 機械学習による EC 番号予測
4. 提案手法
5. 実験結果並びに考察
- その後の流れ
6. おわりに

1.2 本研究の目的

有機合成に用いる酵素を探索する実験コストや時間削減のため、化学反応に最適な酵素候補を EC 番号として予測できる EC 番号予測手法を開発する。

1. 代謝経路の解析 = 生体の機能の解明

未知のタンパク質配列

[MAKLLLIFGVFIFVNSQAQTFPTILEKHN · · ·]

どんな性質か知る
時間 大
コスト 大

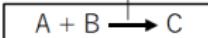
まず大まかに
知りたい

?

2. 新たな化合物の設計 = 医薬品など

酵素(生体触媒)

効率よく反応
環境にやさしい



どの酵素最適か?
時間 大
コスト 大

候補絞りたい

?

2. 酵素と EC 番号

3/21

酵素を 4 組の数字 (EC ○. ○. ○. ○) の組み合わせで分類したもの。

EC 番号の機械学習予測 = 酵素候補の絞り込み

1. はじめに

2. 酵素と EC 番号

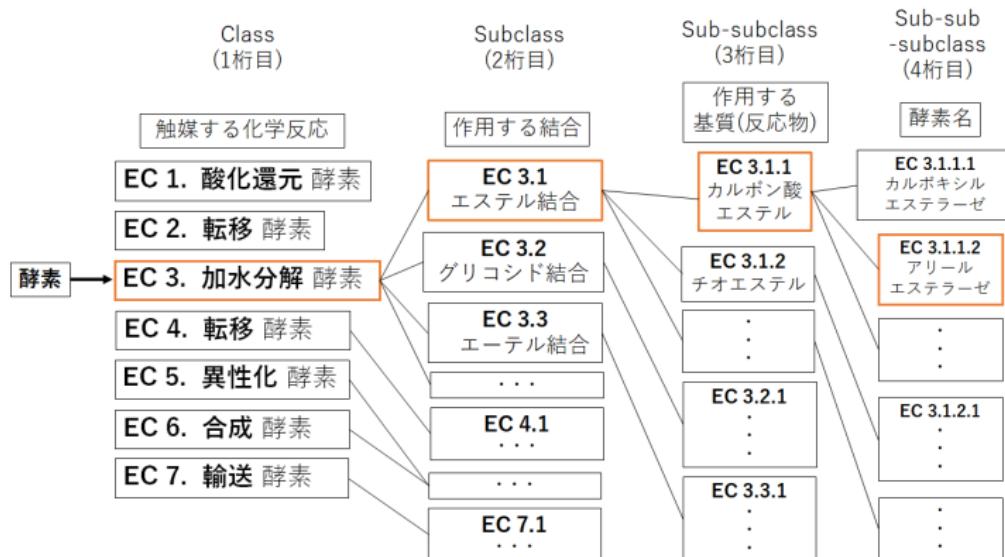
3. 機械学習による EC 番号予測

4. 提案手法

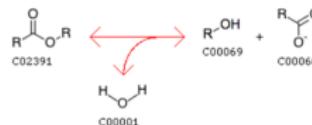
5. 実験結果並びに考察

その後の流れ

6. おわりに



例. EC 3.1.1.1 の酵素を用いた反応



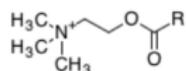
3.1 化合物の構造表現法

4/21

計算機上で化学反応を表現する各種方法

1. はじめに
2. 酵素と EC 番号
3. 機械学習による EC 番号予測
4. 提案手法
5. 実験結果並びに考察
- その後の流れ
6. おわりに

構造式



RDKit

化学構造を扱えるPythonライブラリ
 • 208種類の特性値(記述子)あり

機械学習データ

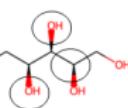
SMILES

*C(=O)OCC[N+](C)(C)C

フィンガープリント

100001011···

→官能基の有無を判定
 2値のバイナリベクトル



物理・化学的特性値

- ・分子量、電荷、疎水性など
- ・化合物A: (100, 8.32, -0.23, ···)
- 特性値のベクトルで化学反応を表現

```
from rdkit import Chem
```

```
Xylitol = Chem.MolFromMolFile('Xylitol.mol')
```

```
Xylitol
```



```
from rdkit.Chem import Descriptors
```

```
print("SMILES: " + Chem.MolToSmiles(Xylitol))
```

```
print("分子量: " + str(Descriptors.MolWt(Xylitol)))
```

```
print("LogP: " + str(Descriptors.MolLogP(Xylitol)))
```

```
print("TPSA: " + str(Descriptors.TPSA(Xylitol)))
```

SMILES: OC[C@H](O)[C@H](O)[C@H](O)CO

分子量: 152.14600000000002

LogP: -2.9462999999999995

TPSA: 101.15

3.2 EC 番号予測手法 123

5/21

EC 番号予測の目的

酵素探索の短縮: 既存データで学習 & 予測精度向上 → (将来的) 未知データ適用

1. はじめに
2. 酵素と EC 番号
3. 機械学習による EC 番号予測
4. 提案手法
5. 実験結果並びに考察
- その後の流れ
6. おわりに

(1) タンパク質配列¹

予測範囲: 1桁目～4桁目

画像処理(CNN), 自然言語処理(Transformer)ベースの予測

[MAKLLLNSQAAQTFTPTILEKHN · · ·]

→1. 代謝経路の解析

(2) 化合物の物理・化学的特性値²

分子量, 電荷, 疎水性など

予測範囲

1桁目～3桁目
データ数小

(3) 差分反応フィンガープリント³

SMILESをハッシュ化
→2048次元のバイナリベクトル

予測範囲

1桁目～3桁目
データ数大

EC番号反応式: 反応物 1 + 反応物 2 ↔ 生成物 1 + 生成物 2

$$\rightarrow RFP = FP_{\text{生成物 } 1 + \text{生成物 } 2} - FP_{\text{反応物 } 1 + \text{反応物 } 2}$$

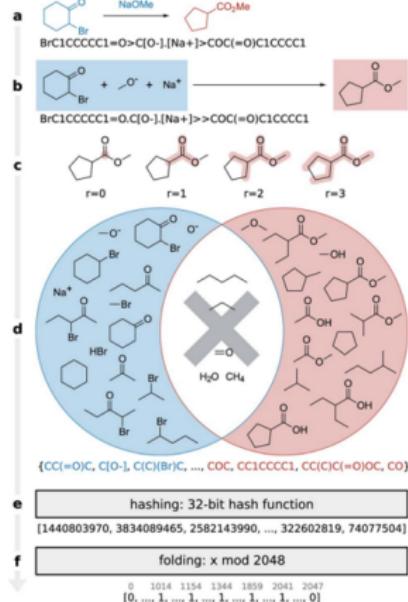
反応物→生成物の変化
= フィンガープリントの変化

2. 酵素を用いた化学反応の設計 =有機合成目線

¹Naoki Watanabe et al., 2023.

²Diogo A. R. S. Latino et al., 2009.

³Daniel Probstl., 2023.



SMILESの2値ベクトル化³

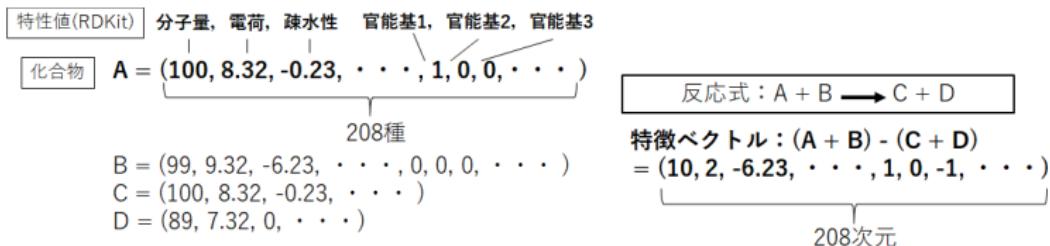
4.1 提案手法の概要

6/21

RDKit 特性値を用いた EC 番号予測

反応物から生成物に変化するときの 208 種類の特性値変化量を計算

1. はじめに
2. 酵素と EC 番号
3. 機械学習による EC 番号予測
4. 提案手法
5. 実験結果並びに考察
- その後の流れ
6. おわりに



有意性

- (2)特性値ベース
 +
 (3)フィンガープリント(一部)の組み合わせ

(3)との比較

1~3行目の予測(同様)

+
 4行目の予測(卒論)

→4行目の予測まで実施

特 徴 ベ ク ト ル ↓	RDKit特性値 →			
	MaxEStateIndex	MinEStateIndex	MinAbsEStateIndex	qed
4.1.1.74	-7.449074	-2.629630	-0.064815	-0.360209 -1
1.2.1.8	-0.197403	1.307870	0.405116	-0.079826 0
2.5.1.85	0.593569	0.196239	-2.312624	0.488055 -4
1.4.1.4	0.234718	-0.413194	0.418052	0.389325 0
1.1.1.3	-0.155930	-0.317778	0.059255	0.016389 -2
...
4.4.1.13	-3.236897	-0.282721	-1.272102	-0.270358 5
2.3.1.-	-0.286151	0.039395	0.454936	-0.386083 0
2.3.1.57	-0.286151	0.039395	0.454936	-0.386083 0

4.2 提案手法 特微量(記述子)選択

7/21

RDKit 記述子の中から必要なものだけを選択する

ラッパー法による記述子選択 (SequentialFeatureSelector(SFS)⁴)

分類モデルの予測精度を評価し、最高評価となる組み合わせの記述子を選択

用いる手法: Step Forward 法

- ① n 個の記述子から 1 つ選択し、 n 種類の分類モデルを作成
- ② 最も評価の高いモデルに用いられている、記述子を選択
- ③ $n - 1$ 個の記述子から 1 つ選択し、先ほど選択されたモデルに追加することで、新たな分類モデルを作成
- ④ $n - 1$ 個のモデルで最も評価の高いものに用いられている、記述子の組み合わせを選択
- ⑤ 指定した特徴数になるまで 3 と 4 を繰り返す。

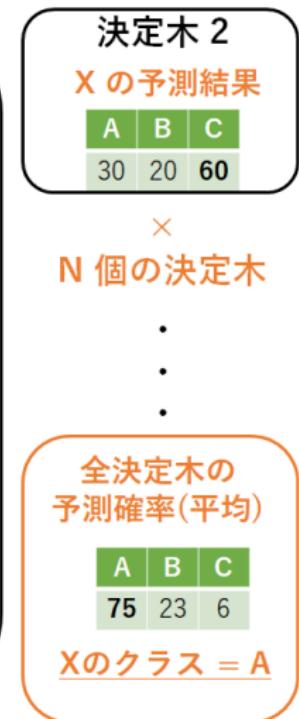
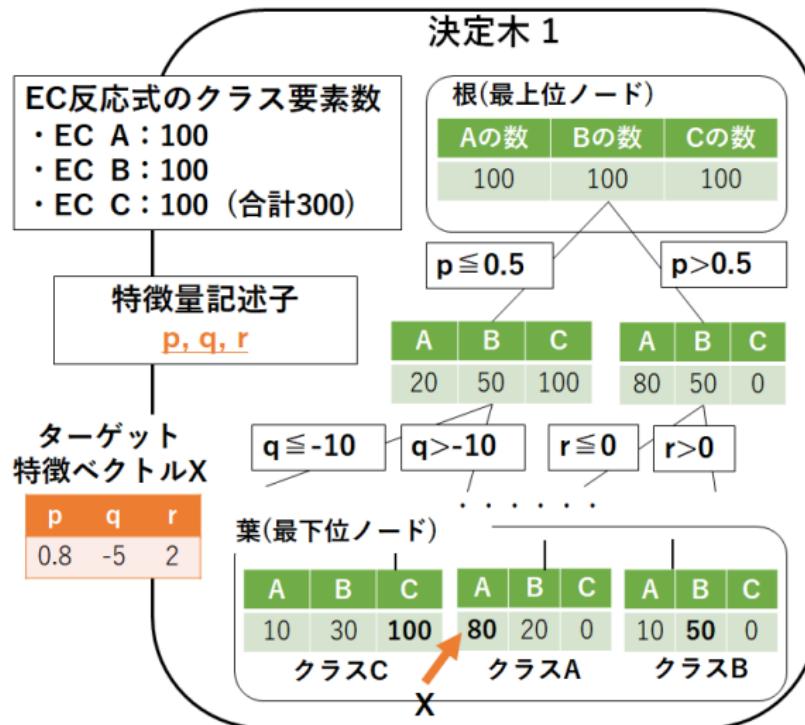
モデルの評価基準: F1 スコア平均 (層化 5 分割交差検証)

⁴ MLxtend.feature_selection,
http://rasbt.github.io/mlxtend/api_subpackages/mlxtend.feature_selection/

4.3 提案手法 ランダムフォレスト (RF) による EC 番号分類 (1)

8/21

1. はじめに
2. 酵素と EC 番号
3. 機械学習による EC 番号予測
4. 提案手法
5. 実験結果並びに考察
6. その後の流れ
6. おわりに



4.3 提案手法 ランダムフォレスト (RF) による EC 番号分類 (2)

9/21

各ノードで IG が最大となるように、特徴量 f とデータを分割する閾値を決定

$$IG(D_p, f) = I_{imp}(D_p) - \frac{N_{left}}{N_p} I_{imp}(D_{left}) - \frac{N_{right}}{N_p} I_{imp}(D_{right})$$

D_p : 上位ノード内のデータ (特徴ベクトル)

f : 分割時に用いられる特徴量

$I_{imp}(t)$: ジニ不純度

D_{left}, D_{right} : 分割先の下位ノード内のデータ

N_p, N_{left}, N_{right} : 上位ノード, 下位 (左右) ノードのデータ数

$$I_{imp}(t) = \sum_{i=1}^c p(i|t)(1 - p(i|t)) = 1 - \sum_{i=1}^c p(i|t)^2$$

$p(i|t)$: ノード t のクラス i のデータ割合, c : ノード t 内のクラス数

パラメータ調整(グリッドサーチ) → 各決定木の最大深さ、決定木数

5.1 数値実験の概要

10/21

10~18p は卒論+修士中間までの内容

1. はじめに
2. 酵素と EC 番号
3. 機械学習による EC 番号予測
4. 提案手法
5. 実験結果並びに考察
- その後の流れ
6. おわりに

数値実験の流れ

1. KEGG の (EC 番号 × 反応式) データで RF モデル作成
→ 特徴量エンジニアリング (記述子選択, RF パラメータ調整)
2. KEGG テストデータに対してモデルの精度予測
3. BRENDA や文献の (EC 番号 × 反応式) データにする予測

データベース (KEGG と BRENDA) の違い⁵

KEGG: 天然の酵素反応中心

BRENDA: 天然だけでなく非天然 (人工基質) も多く含む

有機合成では非天然の化合物も使用

→ BRENDA(文献) の反応に対する予測が重要

⁵荒木 通啓, 2014

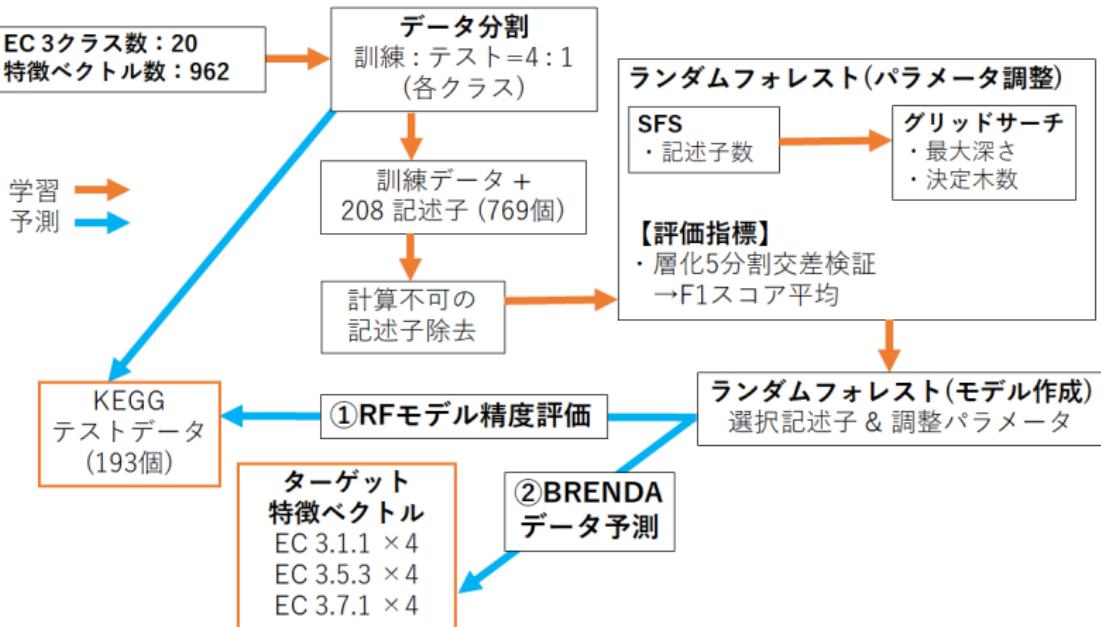
5.1 数値実験の概要

11/21

モデル作成・予測手順

EC3 クラスに限定 & 2・3 桁目までを分類予測

1. はじめに
2. 酵素と EC 番号
3. 機械学習による EC 番号予測
4. 提案手法
5. 実験結果並びに考察
- その後の流れ
6. おわりに



5.1 数値実験の概要

12/21

化学反応データの取得と整形

KEGG より EC3 クラスの構造ファイルを取得し、962 個 ×128 記述子の特徴ベクトルを作成

1. はじめに
2. 酵素と EC 番号
3. 機械学習による EC 番号予測
4. 提案手法
5. 実験結果並びに考察
- その後の流れ
6. おわりに

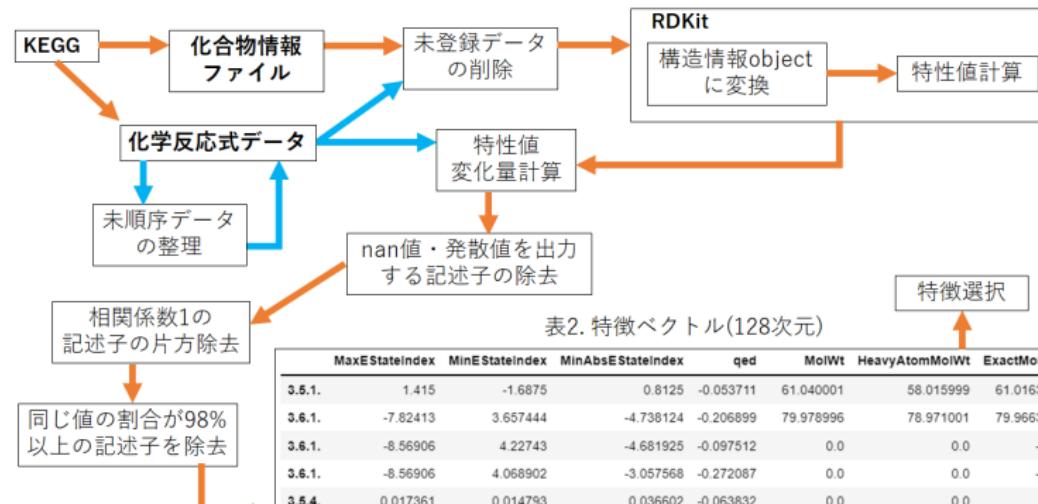


表2. 特徴ベクトル(128次元)

	MaxEStateIndex	MinEStateIndex	MinAbsEStateIndex	qed	MolWt	HeavyAtomMolWt	ExactMolWt	NumValer
3.6.1.	1.415	-1.6875	0.8125	-0.053711	61.040001	58.015999	61.016376	
3.6.1.	-7.82413	3.657444	-4.738124	-0.206899	79.978996	78.971001	79.966331	
3.6.1.	-8.56906	4.22743	-4.681925	-0.097512	0.0	0.0	-0.0	
3.6.1.	-8.56906	4.068902	-3.057568	-0.272087	0.0	0.0	-0.0	
3.5.4.	0.017361	0.014793	0.036602	-0.063832	0.0	0.0	0.0	
...
3.1.1.	-6.828515	-0.668523	-1.021632	-0.087708	0.0	0.0	0.0	
3.2.1.	-8.720595	1.384253	-0.518534	-0.069449	0.0	0.0	-0.0	
3.2.1.	-8.708548	1.381274	-0.495988	-0.069449	0.0	0.0	-0.0	

5.1 数値実験の概要

13/21

EC 3 クラスのデータ内訳

5-fold 交差検証を行うため、反応式 (特徴ベクトル) 数が 6 以上のクラス 20 種を使用

1. はじめに
2. 酵素と EC
番号
3. 機械学習による
EC 番号予測
4. 提案手法
5. 実験結果並びに
考察
- その後の流れ
6. おわりに

クラス名	反応式数	クラス名	反応式数	クラス名	反応式数
3.1.1	122	3.2.2	24	3.5.5	12
3.1.2	59	3.3.2	6	3.5.99	11
3.1.3	152	3.4.13	6	3.6.1	94
3.1.4	29	3.4.19	7	3.7.1	35
3.1.6	14	3.5.1.	155	3.8.1	16
3.1.7	8	3.5.3	25	3.13.1	9
3.2.1	131	3.5.4	47	合計	962

問題点

クラスによってデータ数が不均衡 (予測のばらつき)
オーバーサンプリング (SNOTE) でデータ数を水増し

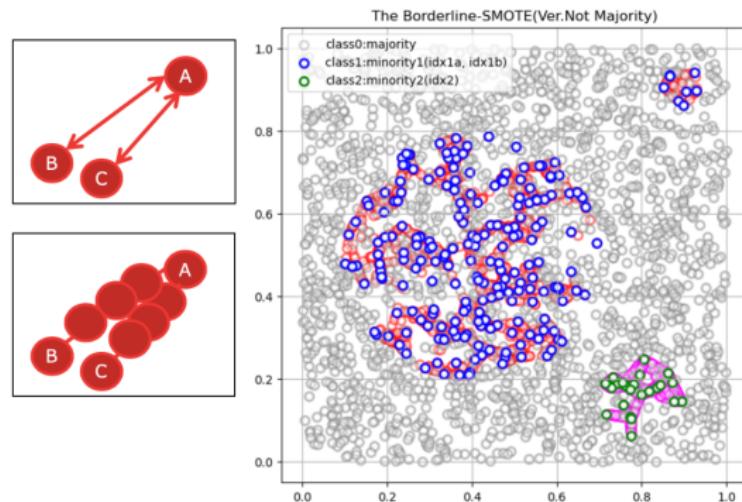
5.2. 実験結果 特微量エンジニアリング

14/21

SMOTE⁶ によるオーバーサンプリング

不均衡なクラスタデータを調整^{7,8}

1. はじめに
2. 酵素と EC 番号
3. 機械学習による EC 番号予測
4. 提案手法
5. 実験結果並びに考察
6. その後の流れ
6. おわりに



⁶Nitesh V. Chawla et al., 2002.

7 【リレー連載】わたしの推しノード -機械学習時代の申し子「SMOTE ノード」が不均衡データの壁を突破する,

<https://www.ibm.com/blogs/solutions/jp-ja/spssmodeler-push-node-10/>

⁸BorderlineSMOTE(Ver. Multiclass_Classification).ipynb.,

<https://github.com/hkoshio/pimientitosML/blob/main/>

5.2. 実験結果 特微量エンジニアリング

15/21

SMOTE 実行結果

データ数最大の EC 3.5.1 クラス (155 個) になるようオーバーサンプリング

1. はじめに
2. 酵素と EC 番号
3. 機械学習による EC 番号予測
4. 提案手法
5. 実験結果並びに考察
6. その後の流れ
6. おわりに

(a) Before applying SMOTE

EC Class	Num of Equation	EC Class	Num of Equation	EC Class	Num of Equation
3.1.1	122	3.2.2	24	3.5.5	12
3.1.2	59	3.3.2	6	3.5.99	11
3.1.3	152	3.4.13	6	3.6.1	94
3.1.4	29	3.4.19	7	3.7.1	35
3.1.6	14	3.5.1	155	3.8.1	16
3.1.7	8	3.5.3	25	3.13.1	9
3.2.1	131	3.5.4	47	Total	962

(b) After applying SMOTE

3.1.1	155	3.2.2	155	3.5.5	155
3.1.2	155	3.3.2	155	3.5.99	155
3.1.3	155	3.4.13	155	3.6.1	155
3.1.4	155	3.4.19	155	3.7.1	155
3.1.6	155	3.5.1	155	3.8.1	155
3.1.7	155	3.5.3	155	3.13.1	155
3.2.1	155	3.5.4	155	Total	3100

5.2. 実験結果 特微量エンジニアリング

16/21

特徴選択・パラメータ調整の結果

RF モデル SMOTE 前 「記述子数：14, 各決定木の最大深さ：20, 決定木数 200」
 SMOTE 後 「記述子数：23, 最大深さ：15, 決定木数 800」

1. はじめに
2. 酵素と EC 番号
3. 機械学習による EC 番号予測
4. 提案手法
5. 実験結果並びに考察
- その後の流れ
6. おわりに

(a) Before applying SMOTE

EC Num	Num of Equation	Precision	Recall	F1 Score	EC Num	Num of Equation	Precision	Recall	F1 Score
3.1.1	25	0.96	0.96	0.96	3.4.19	1	1.00	1.00	1.00
3.1.2	12	0.92	1.00	0.96	3.5.1	31	0.94	0.97	0.95
3.1.3	31	0.91	1.00	0.96	3.5.3	5	0.83	1.00	0.91
3.1.4	6	0.86	1.00	0.92	3.5.4	9	0.89	0.89	0.89
3.1.6	3	1.00	1.00	1.00	3.5.5	2	1.00	1.00	1.00
3.1.7	2	0.00	0.00	0.00	3.5.99	2	1.00	0.50	0.67
3.2.1	26	0.96	0.96	0.96	3.6.1	19	0.86	0.95	0.90
3.2.2	5	0.83	1.00	0.91	3.7.1	7	1.00	0.71	0.83
3.3.2	1	1.00	1.00	1.00	3.8.1	3	1.00	0.67	0.80
3.4.13	1	0.00	0.00	0.00	3.13.1	2	1.00	0.50	0.67

Num of Equation	Precision	Recall	F1 Score
193			
Average	0.85	0.80	0.81
Accuracy			0.92

(b) After applying SMOTE

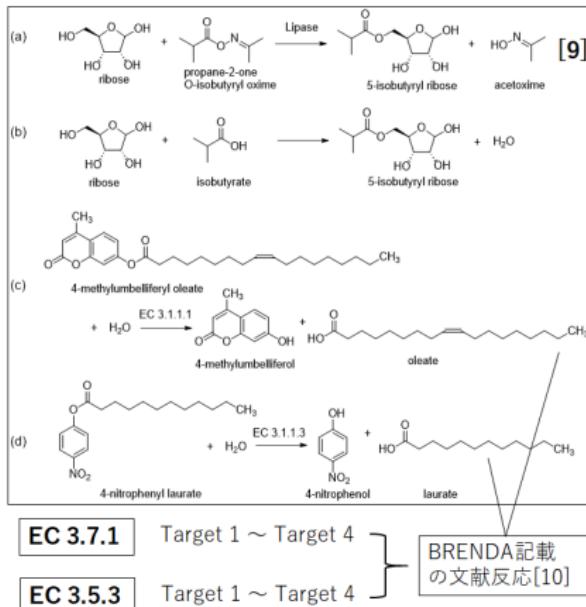
3.1.1	31	1.00	0.94	0.97	3.4.19	31	1.00	1.00	1.00
3.1.2	31	1.00	1.00	1.00	3.5.1	31	1.00	0.97	0.98
3.1.3	31	0.97	1.00	0.98	3.5.3	31	0.97	0.97	0.97
3.1.4	31	1.00	0.97	0.98	3.5.4	31	1.00	0.97	0.98
3.1.6	31	1.00	1.00	1.00	3.5.5	31	0.89	1.00	0.94
3.1.7	31	1.00	1.00	1.00	3.5.99	31	1.00	1.00	1.00
3.2.1	31	1.00	1.00	1.00	3.6.1	31	1.00	0.97	0.98
3.2.2	31	0.97	1.00	0.98	3.7.1	31	1.00	1.00	1.00
3.3.2	31	1.00	1.00	1.00	3.8.1	31	1.00	1.00	1.00
3.4.13	31	1.00	1.00	1.00	3.13.1	31	1.00	1.00	1.00

Num of Equation	Precision	Recall	F1 Score
620			
Average	0.99	0.99	0.99
Accuracy			0.99

5.2 実験結果 BRENDa(文献) 反応式に対する予測

17/21

- EC 3.1.1, EC 3.7.1, EC 3.5.3 からそれぞれ 4 つの Target 反応
- 合成実験の文献⁹ や BRENDa¹⁰ から取得



⁹Tamas Benkovics et al., 2020

¹⁰BRENDA, <https://www.brenda-enzymes.org/index.php>

5.2 実験結果 BRENTA(文献) 反応式に対する予測

12 個中 9 個正しい EC 番号を 1 番目に予測

1. はじめに
2. 酵素と EC 番号
3. 機械学習による EC 番号予測
4. 提案手法
5. 実験結果並びに考察
6. その後の流れ
6. おわりに

**(a) Target Equation
(registered as EC 3.1.1)**

	1st	2nd	3rd
Target1	3.2.1.	3.1.1.	3.8.1.
Probability	0.349167	0.095	0.08375
Target2	3.2.1.	3.1.1.	3.7.1.
Probability	0.230313	0.179375	0.1525
Target3	3.1.1.	3.7.1.	3.2.1.
Probability	0.561849	0.094382	0.067454
Target4	3.1.1.	3.7.1.	3.5.1.
Probability	0.922124	0.052175	0.007679

**(b) Target Equation
(registered as EC 3.7.1)**

	1st	2nd	3rd
Target1	3.13.1.	3.7.1.	3.5.99.
Probability	0.251406	0.127435	0.124286
Target2	3.7.1.	3.1.2.	3.5.1.
Probability	0.293299	0.2725	0.119097
Target3	3.7.1.	3.1.1.	3.1.2.
Probability	0.992454	0.002546	0.0025
Target4	3.7.1.	3.1.2.	3.5.1.
Probability	0.991954	0.0025	0.001625

**(c) Target Equation
(registered as EC 3.5.3)**

	1st	2nd	3rd
Target1	3.5.3.	3.13.1.	3.7.1.
Probability	0.952604	0.009063	0.007774
Target2	3.5.3.	3.5.99.	3.5.4.
Probability	0.7375	0.07625	0.07
Target3	3.5.3.	3.5.4.	3.5.99.
Probability	0.90625	0.05	0.01625
Target4	3.5.3.	3.5.99.	3.1.1.
Probability	0.99875	0.00125	0

修論でやること

19/21

修士中間までの問題点

- ・モデル作成(学習)でSMOTEの仮想データを使っていたこと
- ・BRENDAのデータ不足(予測の信頼性)

1. はじめに
2. 酵素とEC番号
3. 機械学習によるEC番号予測
4. 提案手法
5. 実験結果並びに考察
6. その後の流れ
6. おわりに

新たにやること

EC番号1~3桁の予測

1. はじめに
2. 酵素と EC 番号
3. 機械学習による EC 番号予測
4. 提案手法
5. 実験結果並びに考察
- その後の流れ
6. おわりに

新たなデータの作成

4つのデータベース (Rhea, BRENDA, MetaNetX, PathBank) からなる約 5 万の SMILES データセット¹¹ を使用

→ 50000×200 次元の特徴ベクトル作成

データ数に対する問題点

データ数が以前の 15 倍 → 特徴選択に膨大な時間 (推定 75 時間)

対策 (修論の予測の流れ)

1 衢, 2 衢, 3 衢ごとに分けて特徴選択

トレーニングデータ (80%: 5-fold 交差検証)(1) 1 衢目の予測 (EC1~7)

(2) 7 クラスで 2 衢目特徴選択

(3) 2 衢目各クラスで 3 衢目特徴選択

(4) 2 衢目 3 衢目で選んだ特徴の共通部分を選択

(5) 選んだ特徴に対してテストデータで F 値を評価

¹¹Daniel Probstl., 2023.

6 おわりに

21/21

おわりに

- 現状はデータセットの整形が終わり、特徴選択を実行中(下図)
- 各桁の特徴選択でSMOTEの適用方法を検討中

```
selected_feat3 = XtrainT8.columns[list(sfs3.k_feature_idx_)]
```

```
numOfTrainData: 37900  
numOfTestData: 9475
```

```
[Parallel(n_jobs=1)]: Using backend SequentialBackend with 1 concurrent workers.  
[Parallel(n_jobs=1)]: Done 1 out of 1 | elapsed: 3.9min remaining: 0.0s  
[Parallel(n_jobs=1)]: Done 199 out of 199 | elapsed: 216.8min finished
```

```
[2024-01-18 17:38:27] Features: 1/25 -- score: 0.28867226584401423[Parallel(n_jobs=1)]: Using backend SequentialBackend with 1 concurrent workers.
```

1. はじめに
2. 酵素とEC
番号
3. 機械学習による
EC 番号予測
4. 提案手法
5. 実験結果並びに
考察
6. その後の流れ
6. おわりに